

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

1 本年度の重点目標 ～生徒・保護者を支援する視点で～

(1) 人間尊重の教育の推進

- ・互いの「違い」を認める。皆違いがあるのは当然である。このことが全てのスタート地点であることを認識する。
- ・スタート地点をはっきりさせることにより学校を生徒一人一人がより過ごしやすい場とする契機とする。

(2) カリキュラムマネジメントの実施

- ・スクールミッション・ポリシーの実現のため必要とされる教育課程を求めていく。
- ・指導と評価の一体化を踏まえ、授業改善を図っていく。
- ・効果的な ICT の活用について、研修を行い、その実現を目指す。

(3) 利他・協働の精神

- ・他を思いやる「利他の精神」の浸透を図ることで、互いを尊重することの重要性について啓蒙する。
- ・力を合わせて物事に取り組んでいく「協働の精神」を大切にする。
- ・以上のことをまず教職員が実践する。

2 本年度の経営方針

活力ある学校づくりを目指して教育活動を推進する — 安全・安心で笑顔があふれる学校に —

- (1) 教職員相互の信頼に基づく、一体化した学校運営に努める。
- (2) 新たな学習指導要領を踏まえた生徒主体の魅力ある授業づくりに努める。
- (3) 多様な価値への理解を深めるとともに地域に根差した開かれた学校づくりを推進する。
- (4) 危機管理と健康安全教育によって、生徒の健康と安全を守る基盤を強化する。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価（達成状況；A=おおむね達成できた B=一定レベルまでは達成できた C=改善点が多い）

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
危機管理	学校は、保護者・地域・関係機関等と連携を図り、問題発生時には、所定の「いじめ防止基本方針」や「危機管理マニュアル」等により、適切に対応している。	A	・学校における危機管理は適切になされているものと考えている。また今年度から「すぐー」や「シャボテンログ」など新たな取り組みも始めている。保護者・地域・関係機関等に情報発信し、理解や協力を求めることも重要であるとする。今後も、行事や PTA の取組等の機会を逃さずに情報発信に努めていきたい。	A	A
自律を促す生徒支援の推進	生徒が基本的な生活習慣を確立し、自律した行動ができるよう、支援がなされている。	B	・基本的な生活習慣について、教員と保護者の評価が昨年度よりもやや下がっている。身だしなみや遅刻も含めた時間を守る意識の指導を教職員全体でさらに進める必要がある。 ・生徒に対して「人間尊重」の意識や「利他・協働の精神」を高めさせ、自分を大切にしつつ、相手も大切にすることができるよう支援する。	A	A
	・学校と家庭が連携し、生徒が、自他の人格を尊重し、相互の信頼にもとづく共生社会の担い手として、適切な振る舞いができるよう、支援が行われている。 ・学校と家庭が連携し、生徒が、自ら情報を活用して物事を幅広くとらえたり、表現を工夫して適切に発信することができたりするよう、支援が行われている。	A	・昨年度同様、生徒・保護者ともに、マナー・ルールに対する意識は非常に高い。今後も学校と家庭の連携を図り、社会の担い手としての意識を高めていく。 ・レジリエンスに係る生徒の評価が昨年度よりも高まっている。学校での学びを通じて、自ら学び課題を解決する思考法を身に付けつつあり、目の前の課題に直面し、乗り越える力を身に付けてきていると考える。	A	A

<p>学校関係者評価委員による意見</p>	<p>・地域としての平高の子どもたちに関わる学校の危機管理については地域よりしっかりしたものを持っていると思います。親は平高の校風を子どもとよく話し合うことが、子どもを理解することにつながり、成長が見えるのではないのでしょうか。学校経営は管理職の皆さんのすばらしさを感じております。</p> <p>・(危機管理分野) 生徒からの相談事やトラブルの萌芽を初期の段階から把握するための取り組みとして、対面での相談環境のみならず ICT を活用した方法(「すぐー」および「シャポテンログ」)も活用し、効果をあげていることは高く評価できる。</p> <p>(自律を促す生徒支援の推進分野): 達成状況としてはおおむね目標を達成しつつあると言えるが、アンケート結果では比率としては低い否定的な回答がある。これらについては個別にヒアリングを行うなどの取り組みが望ましい。</p> <p>・学校に求められる危機管理の意識は、日を重ねるごとに幅が広くなり、その精度が求められていると感じています。本人の生き方を支えるファシリテーターとしての教員の在り方、本人の思いとは別に存在する保護者の思い、そして今は、本人や保護者の思いとは別に社会から学校に向けられるまなざしが以前にも増して強くなってきていると感じています。それは、結果が同じでも対応プロセスが問われる時代であるということでもありますので、今まで以上に取組経過や対応過程を明解に説明しながら、SNS も活用してよいことはどんどん発信していくことが大切だと思っております。今年も澄川地区と生徒のみなさんとの連携による取組が双方に有益な効果をもたらしているというお話も伺うことができ、生徒の挑戦する力や創意工夫を引き出し伸長していることは素晴らしいと感じました。引き続き、主体性を育成する取組に期待します。</p> <p>・生徒アンケートの Q1 については、健康・安全管理として大きく括った問いにしてもよいかと思いました。感染症対策に特化した時代は終わり、暑さ対策なども昨今注目されていますので、それらを含む大きな言葉で、主体的な健康管理についての問にはどうかと思います。</p> <p>・生徒のメンタル面におけるケアはとても充実していると感じました。仕組みがいくらしっかりしていてもそれを運用する側がきちんと意識していないと見落としてしまいますが、先生方は時には連携しながら対応されていることがよくわかりました。皆、自分の気持ちをきちんと説明できる生徒であればいいのですが、ちょっとした表現でしかアピールできない生徒もいるかと思えます。そんな微妙なシグナルを見つけられる意識の高さを感じました。</p> <p>・危機管理に関して学校側は十分に対策をとってらっしゃると思います。しかし、そのことが保護者に伝わりきっていないように思われます。改善策にもあるように PTA と連携して、もう少し伝えられるとなおよいと思います。</p> <p>・生徒の基本的な生活習慣等については、家庭での指導次第というところだと思いますので、学校側はよく支援されていると思います。</p> <p>・相互信頼できるような支援というところで、教員側であまりそう思わないという回答が意外と多くて驚きました。教員が一丸となって同じ熱量で支援できることを期待いたします。</p>				
<p>充実した学習支援の推進</p>	<p>生徒が意欲を持って主体的に学習に取り組むよう、指導の工夫や評価の改善などの支援が行われている。</p>	<p>B</p>	<p>・教員、保護者、生徒ともに肯定的評価が昨年度よりも高くなっている。生徒が主体的に取り組む授業が浸透してきているものとする。その一方で、まだ主体的に取り組めていない一部の生徒もいる。引き続き授業の組み立てを工夫するなどの努力を重ねていく。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>充実した学習支援の推進</p>	<p>生徒の学習活動を通して、情報化社会に必要な資質やスキルを伸ばすよう、支援が行われている。</p>	<p>A</p>	<p>・教員、保護者、生徒ともに昨年度よりも肯定的評価が高まっている。すべての学年において一人一台端末を活用した学習に取り組むことができ、高まったと考える。引き続き、各教科全体を通じての活用を広げ、生徒がスキルの向上を実感できるよう取り組んでいく。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>充実した学習支援の推進</p>	<p>生徒の学習活動を通して、知性や感受性をいっそう高めるよう、普通コースとデザインアートコースが、それぞれ特色を生かした教育活動を工夫している。</p>	<p>B</p>	<p>・保護者、生徒の肯定的評価が昨年度と比較し高まっている。学習活動を通じて、知見や思考の広がりを感じ、表現への意欲がある生徒が多い。</p> <p>・特にデザインアートコースで特色ある取り組みが顕著である。</p> <p>・普通コースにおいても、個別的な探究を支援する取り組みや地域連携の取組を充実させつつあり、引き続き、思考力や表現力を育成する機会を増やしていきたい。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>

<p>学校関係者評価委員による意見</p>	<p>・日常生活は地域でも理解できるが、学習関係については校内での指導等によるものと思いますが、教員の皆さんは毎年変化する子どもたちに何を望んでいるのか。子どもは保護者によって異なるのでは？ アンケート以上の、教師の皆さんと生徒のコミュニケーションが創り上げるものと理解しておりますが、アンケート以上のコメントが必要だと私、地域は思います。南区の他の学校と比べても劣るところはないと思います。</p> <p>・生徒の学習意欲を引き出し、それを維持・向上させることは、学校教育の中で永遠の課題とも言えることであり、また、限られた人員の中で生徒一人一人の個性に応じた対応にも限界はあると言える。そうした中において、アンケート結果が昨年度と比較して向上してきたことは、教職員の方々や保護者の方々の努力、そして生徒自身の成長が功を奏しているものと評価できる。学習方法に問題があるとか、学習目的を見失ってしまう生徒も、時には現れるかもしれない。そうした状況を早期に察知し、適切な指導を行なう体制をさらに整えていただきたい。</p> <p>・現行の学習指導要領は個別最適な学びと協働的な学びを一体的に進めると示されていますので、歯止めがかからない少子化の現状や大学での学びの在り方への変革が問われる今、まさに一人一人に目を向けた学びとなるような指導が効果を発揮する時代であることを感じております。委員会の交流においても、自分の探究成果をどのように積み重ねていくかということや単に目先の実績だけではなく、自分がどのような生き方をしていくかといった、より概念化されたなりたい自分を見つけることの価値を一人一人が見付けてくれる学びのフィールドとして、平岸高校のプロジェクトは効果的であると思いました。伝統の三者会も含め、自分の枠組みを打ち破り、自らの可能性を広げることにつながる取組だと思えます。中教審の途中経過では、次期学習指導要領においても益々デジタルを活用した学びが位置付けられるように感じておりますので、今後も BYOD を活用した学習の推進に期待します。</p> <p>・自ら進んで学習する環境が整えられてきていると感じました。自分が興味を持った分野の勉強をとことん進めることや、仲間と連携をしながら自分の意見を思い切って伝えていく生徒さんの姿を想像しただけでもワクワクしてきます。</p> <p>・教員側が積極的に取り組んでいるわりに生徒側に響いていないような感じがします。もしかすると全体への指導より、少人数あるいは個別対応が必要な状況なのかとも思います。いずれにしても教員側が疲弊しないようにと願います。</p>				
<p>自らの将来を思い描くための進路支援の推進</p>	<p>「進路探究学習」やキャリア教育の活動を通して、生徒が自ら目標を明確に持ち、その実現を具体的に目指すよう、支援が行われている。</p>	<p>A</p>	<p>・生徒の肯定的評価が昨年度よりも上昇し7割以上となっている。総合的な探究の時間での各種の取り組みや、進路支援部主催の「平岸マイプロジェクト」などで生徒の意識が高まっていると考える。引き続き、地域との連携を進める「スミヒラベースプロジェクト」をはじめ、内容を充実させていきたい。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p></p>	<p>「セミナー」や校外模試、資格取得試験などの機会提供により、生徒が自ら目標を明確に持ち、その実現を具体的に目指すよう、支援が行われている。</p>	<p>B</p>	<p>・教員の肯定的評価が7割を越え、保護者は7割程度となっている。生徒は昨年度より10%程度上昇しており、家庭の協力のもとで効果的な支援が行われていると考える。</p> <p>・一方で、「総合型選抜」の比率が高まってきており、その現状に合わせたセミナーの在り方について検討が必要である。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p></p>	<p>進路情報の資料や相談環境の充実により、生徒が自ら目標を明確に持ち、その実現を具体的に目指すよう、支援が行われている。</p>	<p>A</p>	<p>・教員と生徒については肯定的評価が昨年度から上昇し、教員は9割近く、生徒は8割近くとなっている。生徒一人一人の進路実現に向け、進路支援部を中心に、きめ細かい相談環境に努めているためと考える。「平岸マイプロジェクト」「平高マイプロジェクト」「キャリアクルー」「面接コンテスト」等の取り組みの成果でもあると考える。引き続き生徒の意欲を引き出していきたい。</p>	<p>A</p>	<p>A</p>
<p>学校関係者評価委員による</p>	<p>・教師の皆さんの毎年変わる子どもへの理解が異なることがアンケートに表れているのでは。子どもたちは先生との間に表れているのは評価書に出ているが、通学時の行動では地域としては素晴らしさを感じております。学校へ訪問する度に子どもたちに成長を感じます。</p> <p>・生徒が自らの進路について考える機会や相談できる環境が用意されていることについて高く評価できる。大学進学については昨今、総合型選抜を取り入れる大学が増えてきており、これに対応する適切な指導が望まれる。生徒自身が大学で何を学びたいか、将来はどのような職業に就きたいのか、などの要望をベースにして、大学での具体的な教育内容・教育環境、あるいはその大学の卒業生の実績などの情報を入手できるようになれば有益な進路支援情報となりうると考えられる。</p> <p>・進路支援部の取組は素晴らしいと思います。先陣を切って取り組む生徒が出てくるのが勢いとなり、これらのコンテストやプロジェクトが、自分にもできるという自信と、自己実現に向かおうとする強い意志を育成するものと感じました。このことが総合型選抜時代、つまり真に自分の探究を深めて、特技を育てていくための次の学びのフィールドとしての大学選択につながる取組なのではないかと、映像を見せていただきながら感じていました。これまでの記憶再生型の学力が転換期を迎え、中学校でも定期テストを実施しない学校が出てきており、日常の授業の取組がルーブリックによる評価として評定するようになってきています。また、情報化時代でも</p>				

意見	<p>ありますので、そのスピードを捉えながら教育を進める上でも、地域との連携や学校間連携、校種間連携を引続き進めていく学校運営の継続に期待いたします。</p> <p>・進路指導については、従来から先生方がひじょうにきめ細かく、各人の個性や志向に合わせて相談に乗っている印象がありますが、さらにそれを深化させている印象があります。昨今の入試形態も多彩になっていることから、一人ひとり違った指導をしていく必要があると思いますが、これからも生徒さんと向き合いながらアドバイスをしていただきたいと願っています。</p> <p>・生徒の進路実現に向けては、学習面だけではなく地域とのコミュニケーションが役立つこともあると思います。プロジェクトの取り組み等は、平岸高校としての特色を出していける活動だと思いますので、継続されていくことを期待いたします。</p>				
特色ある	<p>学校は、部活動・生徒会活動やボランティア活動を通じて、生徒の主体性や協調性を育てている。</p>	A	<p>・昨年度と比較しても、教員、保護者、生徒ともに 10%前後上昇しており、8割～9割となっている。体育系、文化系を問わず、様々な大会で活躍しており、各顧問の指導の賜物であると考えている。生徒自身も充実した活動を経験していると考ええる。</p>	A	A
学校教育の推進	<p>学校は、ボランティア活動や地域のまちづくりに関する活動などを活用し、市立高校の生徒として地域社会の発展や課題解決に貢献する姿勢を育てている。</p>	A	<p>・昨年度と比較し、教員、保護者、生徒ともに肯定的評価が 10%前後上昇し、教員が9割近く、保護者が7割近く、生徒が6割近くとなっている。YOSAKOI ソーラン澄川会場スタッフボランティアやごみ拾いボランティア、「スミヒラベスプロジェクト」のスタートアップ会議等、例年以上の機会を提供することができていると考ええる。引き続き、生徒が地域発展の「担い手」として期待される様々な取り組みを用意していきたい。</p>	A	A
学校関係者評価委員による意見	<p>・学校外での子どもは年毎に成長し、同地区の子どもたちに平高の好感度を与えております。学外の行動の度に先生方に負担をおかけしておりますが、感謝しかございません。保護者の理解が少ないのは少し残念ですが。</p> <p>・部活動・生徒会活動・ボランティア活動ともに、生徒の自律的・主体的活動となっており、それを支えられている教職員の方々や保護者の方々も含めて、高く評価できる。また、地域社会との協働の体験は、生徒にとって大きな学びの場となっており、今後、それらに参加してきた生徒の成長が楽しみである。今後、こうした活動を可能な範囲で広げていっていただきたい。</p> <p>・学校の生徒が地域のボランティア活動をするというフレームは、ともすると地域のために生徒がどのように働いて助けてくれるのか、といったことになりがちです。しかし、自分たちの発想で、自分なりの目的をもって工夫していける要素がしっかりと設定されている取組だからこそ、「下請け」的なボランティアではない、創造的な活動になっているのだとあらためて感心しております。また、高校生は札幌全域から通っているので、地域の活動に参画したことで地域が学びのフィールドになるという活動が、自分にとって身近な地域に目を向ける力にもつながっていくと感じております。引き続き、主体的に参画する取組を大切にしつつ、多様性と華やかさを併せ持つ平岸高校の文化が醸成されていくことを期待します。</p> <p>・生徒さんが生き生きと地域の方と一緒に街づくり活動をされている様子を拝見し、とても感銘を受けました。高校生の新鮮な視点はきっと、街づくりが次世代につながっていくヒントになると思いますし、自分たちが一緒になって住んでいる地域を育てていくという意識を持てることはとても大切なことであると思います。</p> <p>・学校側はいろいろな企画で取り組んでいると思います。昨年度より評価が上昇しているのは、努力の結果だと思います。しかし、主役である生徒の意識改革はまだ発展途上中かと思っておりますので、この結果に甘んずることなく地道な継続を期待いたします。</p>				
総括	<p>・今年度から全学年の生徒が一人一台端末を使用することとなった。生徒の ICT リテラシーの向上を図る必要がある。そのため教員の情報活用能力向上のための研修を一層推し進めていく必要がある。</p> <p>・生徒それぞれの進路希望を叶えるため、進路支援部とキャリア支援部が様々な取り組みを進めているが、今後より一層両部が連携し、効率的な形で生徒にとって充実した取り組みとなるよう業務を整理していく必要があり、それが、より生徒一人一人のニーズに合った、きめ細かい支援につながるものと考ええる。</p>				
学校関係者評価委員による	<p>・重複する話になりますが南北線を利用する子どもたちと澄川駅から乗車する子どもたちの公共への意識が変化しているように思います。地域への助言、アドバイス等は一つ一つ確実にしえる事で子どもたちも成長が見えると思いますので地域も頑張ります。熱い思いを、個々の個性でアドバイスを、今後とも期待しております。感謝!!</p> <p>・情報端末の活用は、今後の学校教育環境において必須となると考えられる。一方で、トラブル等を避けるために ICT リテラシーの向上も進めていく必要があると言える。AI の利用もますます進むと予想され、その適切な利用・運用のガイドラインも AI の進化に応じて適宜修正が迫られる可能性もある。</p> <p>・平岸高校の教員のみなさんが、真面目で一生涯懸命な生徒たち一人一人を大切にしながら、個性を引き出す多様な取組によって、生徒自身も気づかなかった自分発見ができるようにご指導いただいている様子に大変感心しました。また、このような取組は学校によさを見る化する大きな効果があるという思いにもなりました。毎年のごとくですが、学校評議員の方々の、平岸高校への期待と愛情ある言葉は、市民が平岸高校に寄せる期待そのものであると感じております。今後も憧れの学校であり続け、外へ向かって世界を広げる力を育てる創造性のある活動を推進する高校として、より一層の特色ある取組に期待しています。</p>				

る 意 見	<p>・従来から平岸高校は入試でもとても人気があり、入学してからも生徒さんがそれぞれやりたいことを見つけて、それを次のステージにつなげていくイメージがありましたが、今年度はすべての面で充実している感じがしました。これは生徒さんを温かく見守りながらも適切な指導をしていける先生たちの努力の賜物であり、それを保護者や地域も一体となって支えていく構図が成り立っていることによると思います。これからもすべての方々が生徒さんを支えていけるようにご活躍されることを願ってやみません。</p> <p>・端末使用によりできることの幅が広がっていくことと思います。その一方で情報の精査やモラルの確立等、人としての教育がより一層大切になると思います。情報取得で賢くなったような気がしても、その情報をいかにして社会に役立てることができるのかという切り口から考えられる人を育てて欲しいと思います。のびのびとした校風の中で自由な発想、主体的に行動できる人が育まれることを願っています。そのためには、まず教員の皆様が生き生きとお仕事されることを期待いたします。</p>
-------------	--